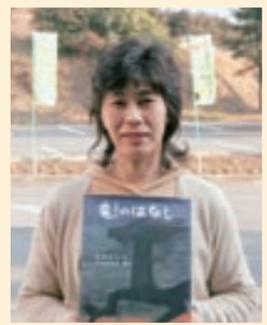


私の推薦

龍のはなし



はが 芳賀 ぶん さん (◎ 小原)

「やわつら心になれる本」との出会い

子どもが通っていた幼児教育の場で、初めて良い絵本の選び方の講座を受けました。それまでは簡素化された物語と分かりやすい絵を選んで子どもに聞かせていた自分がちよっと恥ずかしかったのを覚えています。子ども相手ということ、ファンタジーだけを求めるのではなく、ありのままの表現で子どもが絵本という世界の中で感じる恐怖や不安、そして喜びや安堵、読み終わる頃には自分に対しての愛情の中で安心感を感じることができた最高ですね。私の好きな一冊は宮沢賢治の『龍のはなし』です。このはなしはおとぎばなしではありません」という書き出しで始まるこの本は、宮沢文庫らしい「強いやさしさ」を表現しています。世の中の生き物に恐怖と死を与えた一匹の孤独な龍は、ふとある時自分の生き方に疑問を感じ、善の心を起こし自らが償いできることを静かに悟り、自分の命を投げ出して本当の優しい心を持って、それを全ての生き者に教えるというおはなしです。自分だけよければという今の社会に伝えていかなければならない本だと思えます。現在、読み聞かせをとおして絵本との出逢いは勿論のこと、聞いていただけるとの心の関わりを大切に、私の心の財産を増やして行きたいと思っています。

宮沢 賢治 画
戸田幸四郎 画

目より情報

子どもアニメ映画鑑賞会を開きます

2月5日(日)は、泗水図書館で「菊池市民館講座発表会」に併せて、映画鑑賞会やパネルシアターなどを開催します。皆さんのお越しをお待ちしています。

- 内容
- 10:30～ 子どもアニメ映画鑑賞会「モチモチの木」
 - 11:00～ パネルシアター「三枚のおふだ」
 - しすいっ子童話会
 - 13:30～ 子どもアニメ映画鑑賞会「花さき山」
 - 14:00～ お楽しみ手作りオリジナルのおひなさまを作ろう

三蔵法師のモデルって?

孫悟空という猿が活躍する中国の小説「西遊記」に三蔵法師という名の僧がでてきます。三蔵法師の本名は玄奘(げんじょう)といい、唐の時代に実在した徳の高い僧です。664年の2月5日に亡くなったといわれています。(中央公民館図書室)

バレンタインデーはチョコを贈る日?

聖(セント)バレンタインデーは、本来はキリスト教の聖祭の日です。ローマ皇帝が禁止していた兵士の結婚を、隠れてさせたバレンタイン司祭が270年のこの日に死刑になりました。その後、愛のために命を捧げた司祭を記念する「愛の日」とされ、日本のお菓子メーカーがヒントを得てチョコを「女性から好きな男性に贈りましょう!」と1958(昭和33年)に宣伝したのが始まりです。(中央公民館図書室)

- 問い合わせ先
- 中央公民館図書室 ☎ (25) 1672
 - 七城公民館図書室 ☎ (25) 1580
 - 旭志公民館図書室 ☎ (37) 3111 内線 303
 - 泗水図書館 ☎ (38) 6866

2月の予定

	中央公民館 図書室	七城公民館 図書室	旭志公民館 図書室	泗水図書館
1 水				
2 木				
3 金				
4 土			閉室日	
5 日	閉室日	閉室日	閉室日	
6 月				休館日
7 火				
8 水				
9 木				
10 金				
11 土	閉室日	閉室日	閉室日	休館日
12 日	閉室日	閉室日	閉室日	
13 月				休館日
14 火				
15 水	閉室日			
16 木				
17 金				
18 土			閉室日	古典を楽しむ会 14:00~
19 日	閉室日	閉室日	閉室日	お楽しみ会 14:00~
20 月				休館日
21 火				
22 水				
23 木				
24 金				
25 土	きくちおはなしのもり おはなしかい 10:30~		閉室日	おはなしかい 11:00~
26 日	閉室日	閉室日	閉室日	
27 月				休館日
28 火				休館日

新着図書情報

泗水図書館



くもの糸 北御門二郎聞き書き
北御門二郎 述、南里義則 著
戦争のない世界をどうやって実現するか。剣を鎌に鍛えなおす「イワンの村」に近づいたためにこの人生をどう生きるか。草深い熊本の田舎にごんごん人がいた……。2004年世界したトルストイ翻訳家北御門二郎のメッセージを伝える。

楽しいぞ!ひと昔前の暮らしかた

新田穂高 著
都会育ちで不器用なのに、ひよんなことから始めた、かやぶき屋根の家の暮らし。昔懐かしい道具を使い自然の恵みを感じる生活は、時にはシンドイこともあるけれど、やってみると意外に面白い。スローな暮らしの魅力を紹介。

単騎、千里を走る。

白川 道 著
壮絶な決意と息子への想いを胸に、男は独り荒野を行く。チャン・イーモウ監督、高倉健主演の2006年1月公開映画の脚本をもとに描きあげた「愛と再生」の物語。

チェオクの剣 上・下

田代親世 著、パンハッキ 原作
茶母(タモ)として働くチェオクは、潜入捜査の過程で反体制勢力の頭領チャン・ソクベクに出会う……。3人の男女の愛と壮絶な宿命とを描き、韓国中を熱狂させた歴史アクション・ラブロマンスのオリジナル脚本ノベライズ。



聖ジェームス病院

久間十義 著
病院は生と死が交錯する、日常の隣に口を開いた異界だ。医療過誤事件を縦軸に、東亜クミファのインサイダー取引などいくつものドラマが交じり合う、骨太の物語。

砂漠

伊坂幸太郎 著
入学、1人暮らし、新しい友人、麻雀、合コン。学生生活を楽しむら人の大学生が、社会という「砂漠」に囲まれた「オアシス」で超能力に遭遇するが……。パワームなざる青春小説。

最後の恋

阿川佐和子 角田光代 著
こんなに誰かを好きになるのは、この恋で最後かもしれない。どんな結果に終わろうと、永遠に輝きを失わない恋がある。「最後の恋」をテーマに、人気女性作家が個性と情熱で磨き上げた、宝石のような8つの物語。

愛がない部屋

石田衣良 著
舞台は神楽坂に建つタワーマンション「メゾンリベルテ」。自由の家という名のマンションに住む、そう自由ではない人々の暮らしを、すこしだけリアルに描いた10編の恋愛短編集。

生協の白石さん

白石昌則 著
東京農工大生協の「ひとことカード」に寄せられる要望やユニークなメッセージに、誠実で機知に富んだ回答をしてくれる生協の白石さん。おかしくて癒される、学生と白石さんとのコミュニケーション「ひとことカード」の傑作選。

ふいふい

井上ひさし 著
苦笑、失笑、嘲笑、哄笑……。世の中、笑い事ではないけれど、やっぱりおかしい近ごろの世相。そんな今の、言葉、政治、社会、文化に対する思い、苦言、展望を書き綴った徒然の記。

ひとりぼっちのエルフ

シルヴァーナ・デ・マーリ 著
賢く優しいエルフ族は、幼い少年を1人残して死に絶えた。成長していく少年の行く手には、思いもよらない運命が待ち受けていた……。出会いと別れ、友情と信頼を描き感動を呼ぶ、イタリアのファンタジー。

君は永遠にそいつらより若い

津村記久子 著
就職が決まったばかり、22歳処女。だからとした日常の底に潜む、うっすらとした、だが、すぐそこにある悪意。そしてかすかな希望……。?現代的な筆致が光る小説。「太宰治賞(第21回)」



ゆきがやんだら

酒井駒子 作
朝おきたら、雪が降っていました。やんだら、外で雪のおだんごいっぱい作りたいな……。雪が降り積もる静かな1日を、親子の姿を通じて、優しく美しく描く絵本。

きょうというひ

荒井良二 作
きょうというひの ちいさいのりが きえないように きえないように……。舞い落ちる雪のように淡々と描かれた詩のようなストーリー。特別な日に、そして何でもない日々にもふと手にとりたくなる絵本。

ふろしき大研究 エコライフにも役立つ!

宮井株式会社監修 PHP 研究所
何度でも使え、どんなものでも包めるふろしき。エコロジーなどの面で注目され、話題になっているふろしきを大研究。ふろしきの包み方から色や柄、つくり方、ふろしきの歴史と日本の文化まで分かります。

中央公民館図書室

でいごの花の下に

池永 陽 著
カメラマンだった恋人は姿を消した。死をほのめかすメモと、カメラを残して。フリーライターの耀子は、彼の故郷である沖縄へ。どこまでも続く青い空と海……。愛した彼を追ううち、その過去を知ってしまう……。戦後60年、沖縄に咲いた切ないラブストーリー。



まぼろし

生田紗代 著
フォークを投げつけ、果てしなく愚痴をいい、嫌悪する夫の靴下をたたむ母。「こんなはずじゃなかった」が口癖だった。記憶の中の母は、いつも怒っていた。そして、高校3年の時に父と母は別れた。母とは8年近く会っていない。なぜ今になって戻りたいなんて……。逃れられない母娘の確執を描いた佳作。

恋する手

太田治子 著
竹久夢二の黒猫を抱き締めている恋人の彦乃を描いた「黒船屋」に母の過去を重ね合わせた作品をはじめ、モネの「睡蓮」……ルノワール、ダ・ヴィンチ、ゴッホなど17の名画をモチーフに描く17の物語。



退廃姉妹

島田雅彦 著
「東京は占領されても、あたいたちはアメリカ人の心と財布を占領するんだ」進駐軍の兵士たちに身を投げ出す行動派の妹久美子。特攻帰りの男の全てを受け入れる一途で理知的な姉有希子。どん底から這い上がり戦後をたくましく生きる美しき姉妹の愛と運命の物語。

徳川慶喜家の食卓

徳川慶朝 著
「最後の将軍」から4代目、徳川慶喜家当主が語る食卓の春夏秋冬。一方両のフランス料理から、日本で最初にラーメンを食べた水戸黄門やコーヒーにまつわる話まで、新しいもの好きでユーモラスな慶喜の食べものへの「こだわり」を受継いだ曾孫が語る徳川家の飲食史。